

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽西中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	159人	社会	159人	数学	159人
	理科	159人	英語	159人		

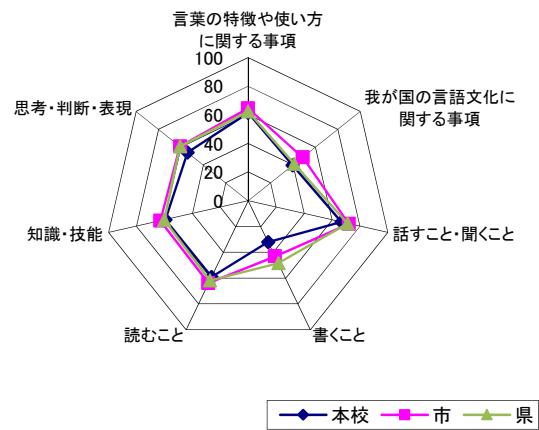
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	61.4	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	39.6	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	66.8	72.1	71.2
	書くこと	32.1	43.1	48.5
	読むこと	59.0	63.9	61.8
観点	知識・技能	59.3	62.9	60.1
	思考・判断・表現	54.2	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

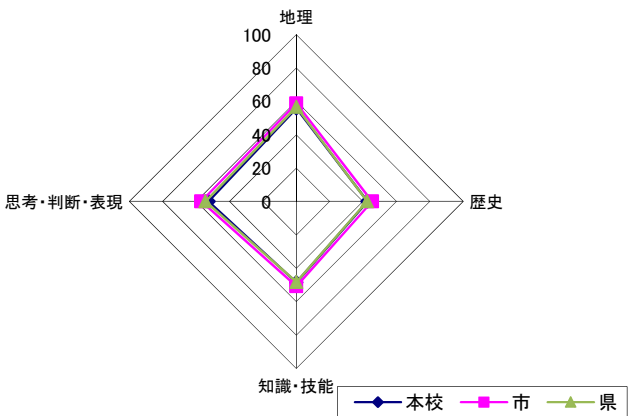
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、県の平均を0.9ポイント、市の平均を3.1ポイント下回った。 ○学習した漢字を正しく読む問題、敬語の働きについて理解しているかどうかをみる問題では、県や市平均を上回っているものもある。 ●ほとんどの問題で県や市の平均を下回っている。	・言葉の特徴や使い方に関する事項では、漢字の書きに関する問題で正答率が市の平均を大きく下回るものがある。また、表現技法の問題では、市の平均から10ポイント以上下回っており、漢字演習や、表現技法の実践的な使い方についての学習にも時間をかけて取り組ませる。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県の平均を7.6ポイント、市の平均を9.1ポイント下回った。 ●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題では、市の平均より9.1ポイント下回っている。	・今後の古典単元を学ぶ中で歴史的仮名遣いの特徴を改めて学習し直す機会を設け、実践的な問題に多く取り組ませる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を5.3ポイント下回った。 ●すべて問題で県や市の平均を下回っている。話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、無回答率が高く、県が12.3ポイントのところ本校は19.5ポイントと差が開いた。	・人の話を聞いたり、自分の意見を伝えたりと話す・聞く機会を増やしていく。 ・話題や展開を捉えさせたり、自分の考えや根拠を明確にするよう話を構成させたりする問題に多く取り組ませる。
書くこと	平均正答率は、市の平均を11ポイント下回った。 ●すべての問題で県や市の平均を下回っている。無回答率が、すべての問題において市平均よりも12ポイント高く、県平均より15.5ポイント高い。	・書くことに苦手意識を持つ生徒が多いため、生徒に身近なテーマで短作文を書かせたり、文章の構成を細かく分けて書かせたりするなどして、条件作文などを書くことへの苦手意識をなくさせる。
読むこと	平均正答率は、市の平均を4.9ポイント下回った。 ○場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題では、市の平均を少し上回った。 ●情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈することができるかどうかをみる問題では市の平均を9.5ポイント下回っている。	・場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基に捉えることができるかどうかの問題では、市の平均と同じくらいできているが、説明文における問題では正答率が下がっている。文章の叙述を基に、根拠を明確にしながら解答につなげられるような活動を授業で多く取り入れる。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	55.8	58.7	56.6
	歴史	42.6	45.4	42.4
観点	知識・技能	48.5	50.7	48.2
	思考・判断・表現	52.6	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

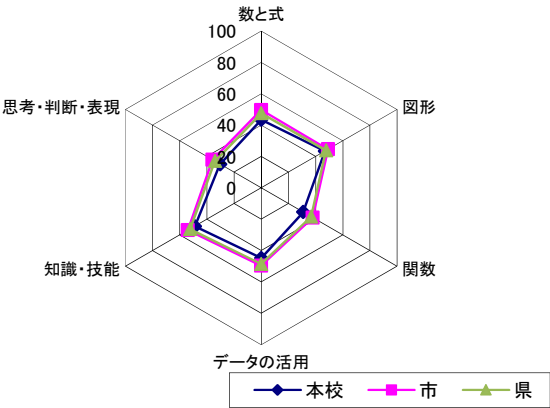
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	平均正答率は、県の平均を0.8ポイント、市の平均を2.9ポイント下回った。 ○資料から読み取る問題の正答率が上昇傾向にある。資料から読み取る輸出入の状況等は県平均と市平均を上回った。 ●世界の各地域の気候帯に理解に課題がみられる。我が国とは異なる気候帯に関しても現地の人々の生活や暮らしに目を向けさせながら、学習していくことが重要である。	・各地域の気候帯は、雨温図の読み取り方を重点化していきたい。なぜその月に降水量が多いのか。気温はどうかを確認しながら、2年生の日本の諸地域について学習をしていく。 ・環境が人を作り、環境がその地域の強い産業になることを意識させていきたい。そのためには、どういった地域でどのような特産物が生まれるのか改めて確認をする必要がある。 ・基礎基本的な知識の定着のためにワークを繰り返し行わせる。
歴史	平均正答率は、県の平均を0.2ポイント上回り、市の平均を2.8ポイント下回った。 ○平安時代の正答率が県の平均と市の平均を上回っていた。平安時代は天皇や貴族中心の政治から武士中心の政治へと変化する転換期である。遣唐使の停止や、桓武天皇の政治など、基礎的な知識の習得ができていない。 ●鎌倉時代以降の武士が政治の実権を握ってからに課題がある。中世の日本は国内の統治が中心となって、物語が展開していくため、時代の流れを意識する必要性がみられる。	・年表づくりなどを行い、歴史の流れを意識した学習が必要である。「古い順にならべよ」という問題に対する正答率が低いのはもちろん、その政策が何のためにどのような目的で行われたのかももう一度再確認をさせながら学習をしていく。 ・ワークを繰り返し行わせて、基礎基本的な知識の習得をさせていく。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	43.5	49.7	47.6
	図形	46.9	49.2	47.7
	関数	30.8	38.0	36.8
	データの活用	44.7	49.6	48.5
観点	知識・技能	48.9	54.0	52.5
	思考・判断・表現	30.3	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

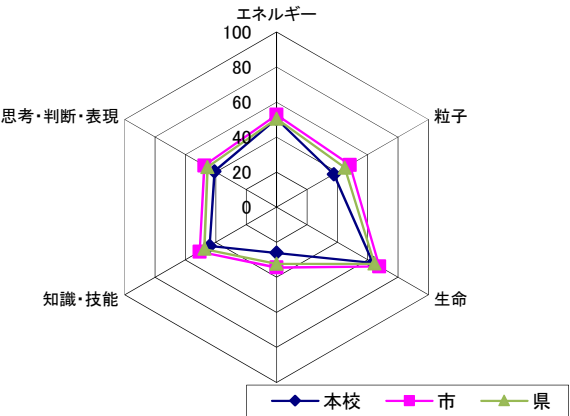
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、県の平均を4.1ポイント、市の平均を6.2ポイント下回った。 ○与えられた情報をもとに数量の関係や法則などを文字を用いた式で表す問題では、県の正答率を1.4ポイント上回った。 ●1次方程式を解く問題では、市や県の正答率よりも10ポイント以上低く、差が最も大きい問であった。	・四則計算や方程式など、基本的な学習内容の定着に課題が見られる。連立方程式や1次関数などの単元を通して、1年時の計算の復習を図る。 ・デジタルドリルは基本的な学習の習得が図れるとともに、1年時の復習や自分が苦手とする単元を把握し繰り返し問題演習をすることができるため、有効活用していく。
図形	平均正答率は、県の平均を0.8ポイント、市の平均を2.3ポイント下回った。 ○角の二等分線の作図や、おうぎ形の面積をもとにして円の面積を求める問題では、市の正答率と同程度であった。 ●図形を移動させて重なる図形がどれかをみる問題では、市の正答率を3ポイント程度下回った。	・図形の移動に関する問の正答率は7割を超えているが、作図やおうぎ形の面積を求める問題の正答率は5割を下回っている。授業で繰り返し復習を取り入れることで、基本的な作図や計算の定着を図る。 ・錐や球の表面積や体積を求める問題についても、正答率が5割を下回っている。デジタル教科書や模型を活用して、視覚的に理解を深めることができる授業を展開する。
関数	平均正答率は、県の平均を6.0ポイント、市の平均を7.2ポイント下回った。 ○比例や反比例を用いて値を求める問題の正答率は他の問題を比べると市や県との差が小さかった。 ●全体的に正答率が市や県と比べて下回っている。特に説明する問や問題の与えられた条件を読み取って答えを求める問題では、無回答率が高い。	・1次関数の単元を通して、比例や反比例の性質とのちがいを理解させることで、学習内容の定着を図る。 ・自分の考えをまとめたり、表現したりする問の無回答率が高いことについて、比例や反比例の特徴、変域などの基本事項を授業で丁寧に扱うとともに、それらをもとにして自分の考えを表現する演習を行う。
データの活用	平均正答率は、県の平均を3.8ポイント、市の平均を4.9ポイント下回った。 ○ヒストグラムを読み取って必ずいえることを答える問題では、市の平均を1.9ポイント、県の平均を1.5ポイント上回った。 ●ヒストグラムから読み取った傾向をもとに、自分の考えを理由とともに説明する問題では、正答率が市よりも8.2ポイント低く、無回答率も4割弱であった。	・累積度数や相対度数などの基本的な内容についても、市の正答率を下回っているため、説明する問題の正答率も低くなっていると考えられる。この単元では多くの用語が出てくるため、授業で繰り返し学習し、基本の定着を図る。 ・関数の領域同様、自分の考えを表現する問の無回答率が高い。昨年度に引き続き、個人活動、グループ活動、全体での話し合い活動へと段階的に発展させる展開を行うことで、比較検討の仕方を身に付けさせるとともに、自分の考えを適切に相手に伝える練習をしていく。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	50.4	52.7	50.5
	粒子	37.7	48.3	44.9
	生命	63.5	67.6	64.4
	地球	26.0	34.4	32.3
観点	知識・技能	44.1	50.7	47.6
	思考・判断・表現	40.9	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

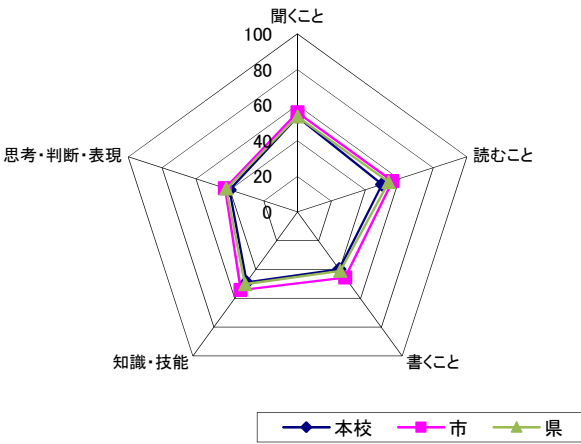
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、県の平均を0.1ポイント、市の平均を2.3ポイント下回っている。 ○実像を理解し、実験の名称を答える問題では県の正答率を10.0ポイント以上上回った。 ●虚像を作図する問題では、市全体の平均より8.3ポイント下回り、大きく差が開いた。	・基本的な理解は進んでいるため、実験の考察の時間をしっかり授業の中でつくり、知識を活用して問題を解く力を身に付けさせる。 ・作図やグラフなど、一問一答形式でないものに関しては、基本的な書き方や着眼点をしっかり教えて、例題を解かせることで身に付けられるようにしていく。
粒子	平均正答率は、県の平均を7.2ポイント、市の平均を10.6ポイント下回っている。 ○食塩の水溶液のモデルを選ぶ問題では県の正答率を4.8ポイント上回った。 ●正答率が市や県と比べて大きく下回っている問題が多くある。特に実験結果を読み取り、考察を導く問題では、無回答率が高い。	・実験では、予想から考察までを一貫して丁寧に行う。また、やらされる実験ではなく主体性のある実験にしていくよう授業展開を工夫する。 ・実験をやりっぱなしにするのではなく、実験を中心として知識を入れられるようにしていく。 ・県や市と大きく差が出た単元である。計算問題もあるため、苦手意識が軽減されるように反復練習をしていく。
生命	平均正答率は、県の平均を0.9ポイント、市の平均を4.1ポイント下回っている。 ○脊椎動物の共通点と差異点に注目し、分類の観点を選ぶ問題では県の正答率を1.1ポイント上回った。 ●ブロッコリーの葉と結果の表を比べ、共通点や差異点に基づいて根と子葉の数を選ぶ問題では、市全体の平均より7.4ポイント下回り、大きく差が開いた。	・生物では、着目点が多く存在する問題もあるため、多面的・多角的に生物の性質やつくりを見れるよう、話し合い活動を多く取り入れる。 ・映像教材を見せて様々な生物を紹介することで、多種多様な生物種に触れさせる。その際に、共通点や差異点に注目させながら見せることで思考力を養う。
地球	平均正答率は、県の平均を6.3ポイント、市の平均を8.4ポイント下回っている。 ○3地点の柱状図の様子から、地層の傾斜を推測して選ぶ問題は、正答率は他の問題を比べると市や県との差が小さかった。 ●花崗岩のでき方について、時間的・空間的な視点から説明する問題では、無回答率が33.3%と非常に高かった。	・映像教材を活用しながら、時間的・空間的視点をもたせる指導をする。 ・実験等が難しく生徒の印象に残りにくい単元のため、実物やモデルを多用して、生徒に印象をもたせるよう工夫する。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	53.5	55.8	53.5
	読むこと	49.9	56.0	53.8
	書くこと	39.8	45.6	40.9
観点	知識・技能	48.9	54.3	50.2
	思考・判断・表現	40.2	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、県の平均と同じ、市の平均を0.3ポイント下回った。 ○情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題では、県の平均を16.5ポイント、市の平均を0.7ポイント上回っているものもあった。 ●情報を正確に聞き取り、適切に応答することができるかどうかを見る問題では、県の平均を11.8ポイント、市の平均を12ポイント下回っており、課題が見られる。	・様々な問題形式に対応できるようにするため、AIドリルのリスニング問題などを活用し、英文を聞く練習をより多く取り入れていく。 ・英語を英語のまま理解できる耳を育てるため、普段の授業で英語を聞いたり、音読練習をしたりする機会を計画的に取り入れるなど指導を工夫する。
読むこと	平均正答率は、県の平均を3.9ポイント、市の平均を6.1ポイント下回った。 ○日常的な話題について、自分が置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかを見る問題では、県の平均を3.7ポイント、市の平均を4.1ポイント上回った。 ●日常的な話題について必要な情報を読み取ることができるかどうかの問題では県の平均を9ポイント、市の平均を10.4ポイント下回っており、課題が見られる。	・デジタル教科書の音声、絵や映像を参考にしながら、単語の意味を推測し、教科書の英文の概要をつかむ練習や他の長文問題にも計画的に取り組ませる機会を用意し、継続していく。
書くこと	平均正答率は、県の平均を1.1ポイント、市の平均を5.8ポイント下回った。 ○一般動詞(eat)の過去形を正確に書くことができるかどうかを見る問題では、県の平均を13.6ポイント、市の平均を4.8ポイント上回った。 ●一般動詞(study)の3人称単数現在形を正確に書くことができるかどうかを見る問題では、県の平均を20.4ポイント、市の平均を23.2ポイント下回り、課題が見られる。	・習った文法を使って英文を作る練習を繰り返し行うことで、自分の力で英文を構成し、まとまりのある文章を作る力を育てる機会を授業の中で確保する。 ・生徒が書いた英文をALTに添削してもらう機会を多く設け、生徒自身が表現したいことについて英語で正確に表現できる力を身に付けるような指導を工夫していく。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業で分からないことがあると先生に聞くことができる」という肯定的回答は、本校(72.8%)が県平均(73.7%)とほぼ同水準で、やや上回っている。これは教員が生徒一人ひとりに寄り添い、質問しやすい雰囲気づくりや授業中の対話を大切にしている成果と考えられる。今後も授業前後や休み時間に声かけを積極的に行い、質問をためらう生徒にも気を配り理解を深める指導を続ける。また、チームティーチング(T.T)やグループ活動、ICT活用を推進し、多様なコミュニケーション手段を整備して、生徒が安心して質問や発言ができる環境を一層整えていく。

○「将来の夢や目標をもっている」「家の人と将来について話すことがある」に「はい」と回答した生徒は、それぞれ本校42.6%、40.1%で県平均の46.9%、35.0%と比較的近い。家庭内で進路に関する対話が一定程度行われており、生徒は将来を考える機会をもっている。しかしながら、夢や目標は漠然としている場合も多いため、進路ガイダンス、職業講話、上級生による体験発表など多様な情報提供を増やし、具体的な進路計画が立てられるよう支援を強化する。キャリアパスポートなどのツールを活用し、自己理解促進と教員の個別支援、励ましも計画的に行い、自己実現に向けたサポート体制を整える。

●「家で学校の宿題をしている」は本校65.4%で県平均69.1%を約4%下回り、個人差も大きい。宿題提出率は授業内の様子と概ね一致しているものの、主体的な学習意欲や家庭での学習習慣の定着が課題である。特に、宿題を計画的に進めたり毎日一定の学習時間を確保したりする力が弱い生徒への支援が必要。担任と教科担当が連携し、宿題の意義や学習習慣の重要性を繰り返し伝え、家庭との連携も強めていく。学習記録表やチェックリストの活用により進捗や振り返りの機会を設け、習慣化を図りたい。

●「家で授業の復習をしている」に「はい」と回答した生徒は31.5%で県平均33.9%を下回る。宿題は行っても復習を自主学習として捉えていない生徒が多く、学力定着や伸長につなげていない。復習が成績向上の近道であることや、その日のうちの見直しの重要性を学年集会・保護者会で強調し、復習チェック表や家庭での勉強会など復習の習慣を定着させる工夫を進める。

●「自分で計画を立てて勉強している」「自分で考えた勉強をしている」に「はい」と回答した生徒は、県平均を上回っているが、割合としては多くはない。今後は各教科の授業において、どのように学習を進めることが効果的の指導を行い、担任の学習計画支援、振り返り活動を充実させ、生徒の主体性を育成する。さらに、放課後学習など多様な学習機会を提供し個別支援を行う。

●生活習慣面では「毎日朝食を食べている」が71.6%と県平均の79.8%を大きく下回るほか、夜更かしやスマートフォン・ゲームの使用時間が多い傾向がある。生活リズムの乱れは学習意欲低下の一因となる。今後は生活習慣の改善を目的とした学年集会や保護者会での呼びかけを強化し、保護者との連携を密にしながら個々の生徒の状況把握を行う。必要に応じて面談や家庭訪問も実施し、「生活習慣スローガン」や「メディアコントロール週間」など具体策の企画・運用を進める。生徒が自分でリズムを整えられる力の育成をめざす。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「分かる授業」による学習意欲の向上と、教員と生徒の信頼関係づくり	- 英語科におけるT.Tの充実 - 小集団内でのグループ活動推進 - 各教科での「ねらいと振り返り」の明示 - 一人一台端末(タブレット)活用による学習の個別最適化 - 定期テスト前には「質問学習」や「レベルアップ学習」「夏休みの学習サポート」の実施 - 分からないことを先生に質問できる雰囲気づくり - 進路情報の提供と個々の進路意識の高揚支援	- 授業で先生に質問できる」肯定的回答は県平均を上回る。 「将来の夢や目標を持っている」も県よりやや高い水準。 - 勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある生徒が、県の平均を上回る。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
- 家庭学習全般(宿題・復習・自主学習等)の肯定的回答が市や県の平均を大きく下回る - 基本的な生活習慣(朝食・メディア・ゲーム・睡眠など)の定着が不十分	- 家庭学習の週間・自立型への転換 - 生活リズム改善(早寝・早起き・朝食・メディアコントロール) - 家庭との連携強化	「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習のやり方を明示する。 「家庭学習強化週間」を設け、テスト準備のための学習計画表作成と、保護者コメント記入を促す。 「学習だより」等で自主学習ノートのまとめ方を紹介。 - 各学年廊下に優良な自主学習ノートの見本を掲示。 - 自主学習ノートは毎日点検を行い、内容向上のため助言する。